

メンタルヘルスに課題のあるHIV陽性者に対する 看護職と心理職が協働する支援とは Vol.2

HIV感染症は長期療養が可能な時代となり、高齢化や合併症のコントロール、メンタルヘルスなど新たな課題も増えています。HIV陽性者をとりまくメンタルヘルスの課題は、精神疾患をはじめ服薬・闘病疲れやセクシュアリティによる生きづらさ、HIVに対する差別・偏見など多岐にわたり、HIV治療や療養に影響を及ぼします。

本会は、メンタルヘルスの課題をもつHIV陽性者の支援について振り返り、看護職と心理職のそれぞれの役割に基づいた協働と、支援について学ぶことを目的としています。

*本セミナーは日本エイズ学会認定制度の教育研修単位申請中です。

日時

2025年1月31日（金）

18時00分～19時30分（90分）*17時45分～入室可

対象

HIV陽性者の支援に携わっている
看護職および心理職

開催形式

ZOOMミーティングによるライブ配信（200名）

お申込は下記URLもしくはQRコードから
<https://forms.office.com/r/0EwBptkRAJ>

〃切 2025年1月24日（金） 23：59

*個人情報 は 運営管理目的以外に使用いたしません



プログラム

総合司会 杉野 祐子（国立国際医療研究センターACC 副看護支援調整職）

18：00-18：10 開会挨拶 湯永 博之（国立国際医療研究センターACC センター長）

18：10-18：30 教育講演「中年期から高年期におけるHIV陽性者のメンタルヘルスの変化とその支援」
安尾 利彦（NH0大阪医療センター臨床心理室 主任心理療法士）

18：30-19：00 事例提供「両親の介護のために帰郷したHIV陽性者のメンタルヘルス支援を振り返る」
宮崎 雅美（愛媛大学医学部附属病院 副看護師長）
中尾 綾（愛媛大学医学部附属病院 臨床心理士）

19：10-19：25 ディスカッション

「ライフステージの変化を踏まえた看護職と心理職の支援役割とは」
コーディネーター 杉野 祐子・安尾 利彦

19：25-19：30 閉会挨拶 大金 美和（国立国際医療研究センターACC 患者支援調整職）

【問い合わせ先】 国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター
セミナー事務局 長島・片平 e-mail：hiv-hospital-info@acc.ncgm.go.jp

◆主催：令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染症の医療体制整備に関する研究」（湯永博之：国立国際医療研究センター）分担研究「ブロック内中核拠点病院間における相互交流によるHIV診療環境の相互評価とMSWと協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」（大金美和：国立国際医療研究センター）

◆共催：令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血液病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究（藤谷順子：国立国際医療研究センター）分担研究「薬害HIV感染患者のメンタルヘルスの支援に関する研究」（木村聡太：国立国際医療研究センター）